

2 事業の実績

(1) 業務概括

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	平成21年度	平成20年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域人口 (人) A	284,910	285,159	249	0.1
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0.0
現在給水人口 (人) B	263,732	263,622	110	0.0
普及率 (%) B/A	92.6	92.4	0.2	
給水能力 (m ³ /日)	133,600	133,600	0	0
総給水量 (m ³) C	29,712,310	28,908,104	804,206	2.8
有収水量 (m ³) D	27,656,923	27,133,163	523,760	1.9
有収率 (%) D/C	93.1	93.9	0.8	
導送配水管延長 (m)	1,223,850	1,217,771	6,079	0.5
職員数 (人)	98	98	0	0.0

(備考) 「総給水量」及び「有収水量」には、福岡県南広域水道企業団の安定供給を確保するための応援給水量(平成20年度 1,506,721m³、平成21年度 2,186,745m³)を含む。

給水区域人口

平成17年度以降減少しており、平成20年度は田主丸町の一部を除く区域が含まれたことにより大きく増加したものの、本年度は若干ながら減少に転じている。

計画給水人口

平成20年度に、田主丸町の一部を除く区域を含む計画に伴い、城島町及び三潴町分の見直しを行ったが、本年度の変更はない。

現在給水人口

平成17年度以降減少していたが、平成20年度に増加に転じ、本年度は110人増加している。

普及率

給水区域人口は減少したものの現在給水人口は増加したので、普及率は前年度よりも上昇している。

総給水量

本年度は前年度と比較すると、804,206 m³増加している。その主な要因は、料金水量（一般需要家に供給され、水道料金に還元される水量）などが179,397 m³減少した一方で、応援給水量や無効水量中の不明水量などが、983,603 m³増加したことによるものである。

有収水量

本年度は前年度と比較すると、523,760 m³増加している。これは、料金水量が176,092 m³減少したが、応援給水量が680,024 m³、分水量が19,828 m³増加したことによるものである。

有収率

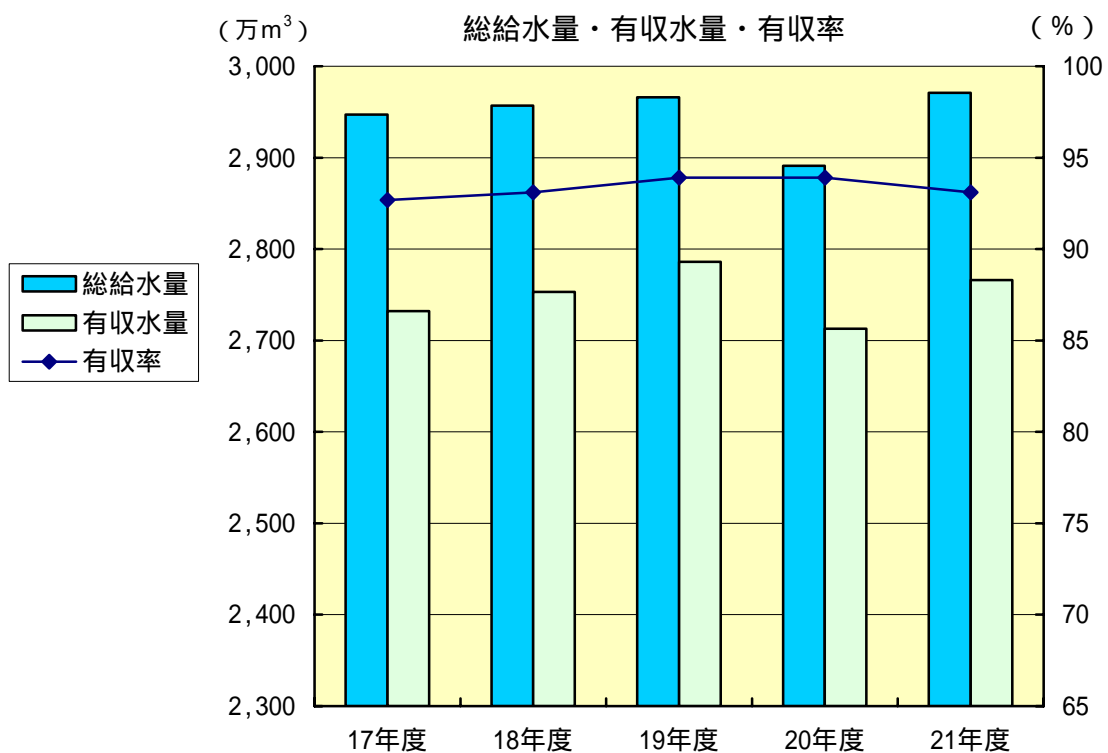
本年度は前年度と比較すると、0.8ポイント低下し、93.1%となっている。

これは、本年度は、総給水量・有収水量ともに増加したが、総給水量の増加率が有収水量の増加率を上回ったことによるものである。

導送配水管延長

本年度は6,079m増加している。これは、口径75mmの配水管が1,755m減少したが、口径100mm及び65mm未満の配水管が、合わせて7,834m増加にしたことによる。

導送水管について、増減はない。



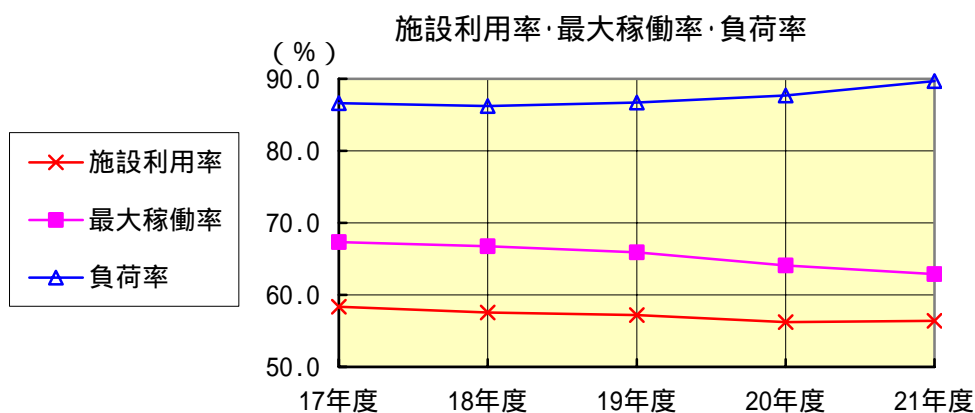
(単位：m³・%)

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
総給水量	29,474,794	29,568,164	29,656,754	28,908,104	29,712,310
有収水量	27,320,638	27,530,733	27,855,415	27,133,163	27,656,923
有収率	92.7	93.1	93.9	93.9	93.1

(備考) 「総給水量」及び「有収水量」には、福岡県南広域水道企業団の安定供給を確保するための応援給水量(平成17年度 1,024,191m³、平成18年度 1,493,978m³、平成19年度 1,703,538m³、平成20年度 1,506,721m³、平成21年度 2,186,745m³)を含む。

(2) 水道施設の利用状況

水道施設の利用状況（施設利用率、最大稼働率及び負荷率）は、次表のとおりである。



(単位: $m^3 \cdot \%$)

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
1日給水能力 A	133,600	133,600	133,600	133,600	133,600
1日平均給水量 B	77,947	76,916	76,375	75,072	75,413
1日最大給水量 C	89,967	89,208	88,058	85,608	84,041
施設利用率 B / A	58.3	57.6	57.2	56.2	56.4
最大稼働率 C / A	67.3	66.8	65.9	64.1	62.9
負荷率 B / C	86.6	86.2	86.7	87.7	89.7

(備考) 表の各数値は、総給水量から応援給水量を除いて算出している。

1日平均給水量

平成17年度以降、減少が続いていたが、本年度は若干増加に転じている。

1日最大給水量

平成17年度以降、減少が続いている。

最大稼働率

1日供給量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、施設効率性の点からは高い方が良いが、100%に近すぎると安定供給の面から問題があるとされる。

最大稼働率は年々低下しており、本年度は前年度と比較しさらに1.2ポイント低下し62.9%で、最大給水能力の余裕は37%程度となっている。

負荷率

施設の効率を判断する指標であり、施設効率性の点からは高い（1日平均給水量と1日最大給水量の差がなく、需要の変動が少ない状態）ほど良い。

平成18年度にわずかに低下したが、平成19年度以降、本年度も上昇している。

施設利用率

平均的な施設の稼働状況を示す値であり、最大稼働率及び負荷率とあわせて、施設の全般的な稼働状況を把握することで、施設の規模が適切であるかどうかを総合的に判断するものである。この値が高いほど、施設規模は適切であり、逆に低い場合は、施設が遊休化していると判断できる。

最近5年間では、平成17年度以降の低下傾向から、本年度は、前年度比較で0.2ポイントではあるが、わずかに上昇に転じた。しかし、最大稼働率の低下傾向も併せて考えると、まだ本市の水道施設は給水能力の余裕がある状態といえる。